

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (安芸高田市立根野小学校)

- ① 教科等 音楽科
- ② 学年 第2学年
- ③ 単元名(題材名) いろいろな音にしたしもう
- ④ 本時の目標 音色の違いを感じ取って音の出し方を工夫する。
- ⑤ 学習の流れ (3時間目/全8時間)

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 既習曲を歌う。 2 ブラックボックスの中の楽器当てクイズをする。 3 本時のめあてを確認する。	○お互いの声の響きに留意しながら歌わせる。 ○ブラックボックスの中にある材質による音色の違う楽器や音具の音を集中して聴かせ、音色の違いに興味を持たせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">自分の見つけた音を紹介しよう。</div>	
4 いろいろな音色の違いに気付いて音見つけをし、音の出し方を工夫する。 5 自分の見つけた好きな音をワークシートにまとめる。 6 見つけた音を友達に紹介する。	○いろいろな楽器や音具を鳴らして、その中から好きな音を探して見つけさせる。 ○さまざまな音の出し方があること、打つ物によっても音が変わることなどに気付かせる。 ○ワークシートに、自分の好きな音についてまとめさせる。 ○実際に好きな音を出しながらどのようにして音を出すのか、どのようなところがいいと思ったのか、素材や音色の特徴から説明させる。 ○友達の見つけた音と自分の見つけた好きな音とを比べて、素材や音色の点で仲間分けをさせる。	身の回りの音の音色の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら音の出し方を工夫している。 [音楽表現の創意工夫] (行動観察・発言・ワークシート)
7 学習の振り返りをし、次時の学習内容を知る。	○見つけた好きな音を使って、音遊びをすることを伝える。	

〔言語活動の充実〕

指導のポイント

自分の好きな音を友達に伝えるためにワークシートを活用させる。

- ワークシートにまとめさせることで、自分がなぜその音が好きなのか整理することができる。

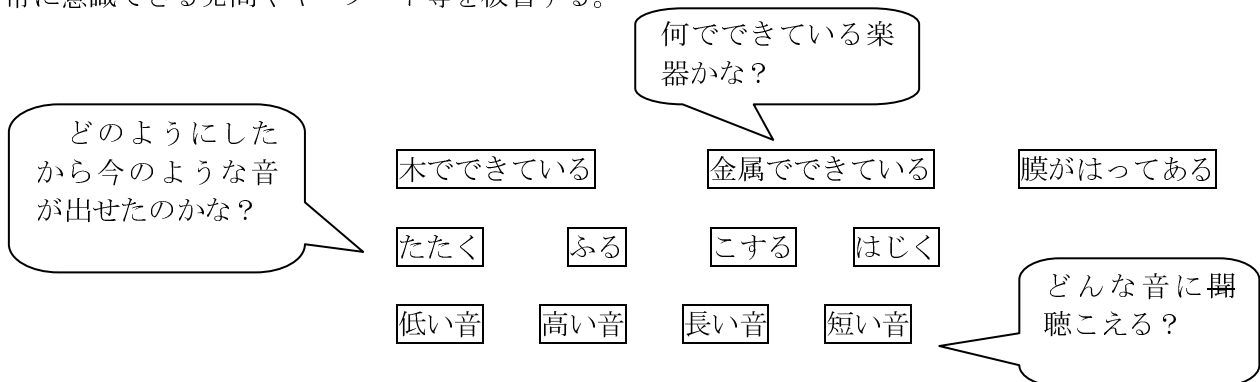
<じぶんの好きな音>

がっきや ものの 名前	何で できている？	どうやって 音を出したの？	どんな音がしたの？ (音をあらわすことば)

- ワークシートをもとに、音を実際に出しながらみんなに説明させる。

音色の違い、音の出し方の工夫、音の特徴に気付かせるための発問や板書の工夫をする。

- 選んだ楽器や音具が何でできているか、どのようにして音を出すのかが、友達と同じかどうかを常に意識できる発問やキーワード等を板書する。



音に対する興味・関心を深めさせるために、音のイメージを言葉で表す。

- 自分の探した音やその出し方、どのような音だから気に入ったか等を説明させることで、音の特徴に気付いていくことができる。また、音色を言葉で表す活動を行うことで、音色にさらに注目することができる。

設定した言語活動を通して育てたい力

- 聴こえた音色の特徴を言葉で表すことを通して、音素材やその音の出し方の違いにより音の特徴の違いがあることを感じ取ることができる。